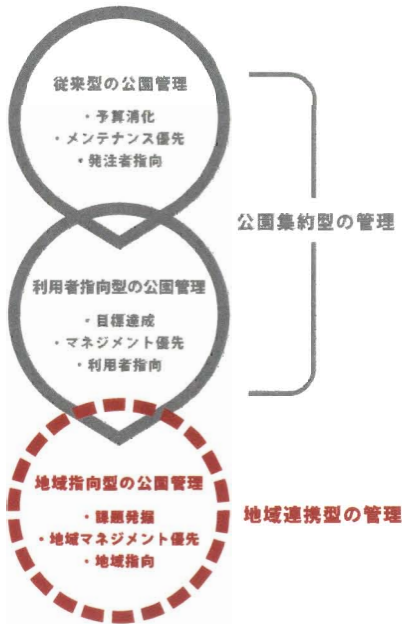


# 国営みちのく杜の湖畔公園における地域振興に寄与する公園管理

## 01 地域指向型の公園管理の必要性

- ・従来型の公園管理は、予算消化・メンテナンス優先・発注者指向の傾向であった。
- ・今日の社会ニーズを反映し、目標達成型・マネジメント優先型・利用者指向である、「利用者指向型」の公園マネジメントに移行した。
- ・しかし、「利用者指向型」の公園管理までは、公園内で完結する「公園集約型」であった。
- ・これからは、環境保全、生活文化の継承、景観形成、広報や観光のネットワーク化、公園関連の経済活動、防災等、地域の振興や活性化の観点に基づいた公園マネジメントが必要。
- ・課題発掘・地域マネジメント優先・地域指向である「地域指向型の公園管理」を構築するべきである。



## 03 地域の環境保全に寄与する公園管理

公園内にある里山・里地、歴史的な遺跡、移築建物やそれに付随する営み等の保全・継承を、地域住民との参加・協働により行う管理。

### 事例 01 国営讃岐まんのう公園における自然資源の保全・活用

- ・希少種などを保全・活用する公園空間に整備、管理
- ・自然環境のしくみ、人と自然の関わりを学ぶ機能
- ・インタープリターの養成



外来種駆除作業

### 事例 02 吉野ヶ里歴史公園における歴史的資源の保全・活用

- ・弥生時代の遺跡保全と歴史体験プログラムの提供
- ・専門家の監修による本格的な企画展示
- ・中国語、韓国語のガイドによるインバウンド対応



特別企画展「よみがえる邪馬台国」

## 04 地域振興に寄与する公園管理

公園スタッフの雇用や必要物品の地域からの購買等の経済面、地域と共同での商品やイベント開発等による観光面から地域振興を行う管理。

### 事例 01 埼玉県吉見総合運動公園における特産物を活用した「商品開発」

- ・規格外のいちごを活用したスムージーを地元大学と共同開発
- ・フードアクション・ニッポンアワード特別賞（2013）
- ・廃棄いちごの減少、特産品 PR



つぶつぶいちごのベジタブルスムージー

### 事例 02 新宿中央公園におけるイベント開催による「にぎわい」づくり

- ・園内にキッチンカーを置き、にぎわいの場を創出
- ・仮設ビアガーデン、「イブニングバー」の開催
- ・「新宿副都心エリア環境改善委員会」との協働・連携



イブニングバー

## 02 地域指向型の公園管理の実際

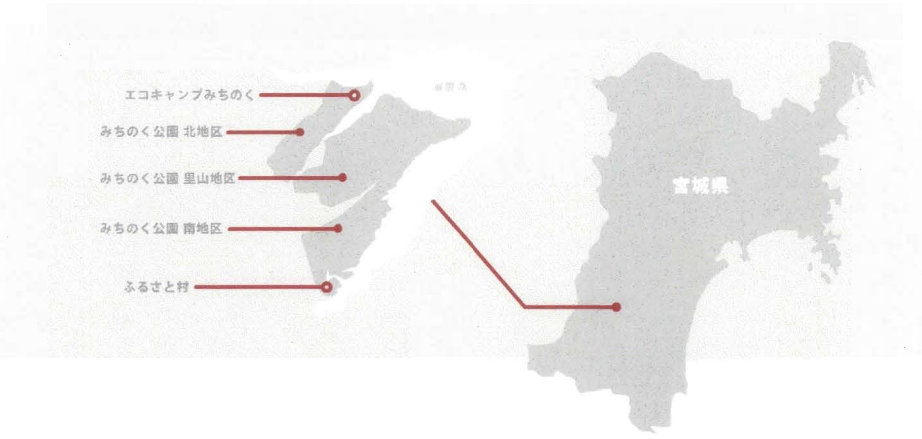
都市公園では、地域において良好な環境を形成する骨格となり、環境保全や防災等を実践する活動の拠点や公園を含んだ地域内の自然・歴史・文化等の情報の発信源として機能することが期待される。地域レベルでの良好な環境や地域価値の維持・向上は社会的な要請である。

### 地域指向型の公園管理のあり方

- 地域の環境保全に寄与  
自然環境、歴史・文化の保全・活用等
- 地域振興に寄与  
経済効果、観光振興等

Park Management  
for Local Revitalization  
in Michinoku Lakewood  
National Government Park

一般財団法人 公園財団  
(公園管理運営研究所)  
平松 玲治



国営みちのく杜の湖畔公園

国営みちのく杜の湖畔公園は、東北地方唯一の国営公園として、豊かな水と緑に育まれた健康づくりと憩いの場として整備され、多くの利用者が来園している。

1989(平成元)年の開園以来、「ふるさと村」や「オートキャンプ場 エコキャンプみちのく」が供用されるなど、広域レクリエーションの場や、観光拠点となっており、地域振興に寄与している。



みちのく公園



ふるさと村



エコキャンプみちのく

花壇用花苗の委託生産

概要

みちのく公園では、約3haの規模を持つ大花壇を有し、6万株以上の花苗を植栽している。使用する花苗は、地元の「フラワー生産組合」に委託している。

経緯

フラワー生産組合の前身は、菊などの花卉の生産を生業としていた小野菜花木生産組合である。同組合は、みちのく公園の整備用地提供により営農方針を大きく転換せざるをえなくなり、生活再建対策として本公園の花壇用草花の生産に切り替え、開園時より委託生産を開始し現在に至っている。

特徴

- ・本公園への草花材料を供給することにより、生活基盤を成立させている地域の雇用実態に配慮。
- ・生産者が近隣にあるため、一度に大量の草花を使い、短期間で搬入・植付けを完了させることが可能。
- ・高齢化による後継者の確保が課題。



生産農家 / 彩の広場 大花壇

オリジナル商品の開発

概要

地域の活性化を図ることを目的に、みちのく公園の管理受託者(管理センター)が主体となり、公園が立地する川崎町の新規地場産品として、牛肉、チョコレート、そばを使った3商品を開発した。

経緯

2011年の東日本大震災による被災者支援の一環として行われた雇用創造事業である「新規地場産品開発後継者」を管理センターが受託し実施した。契約期間に7名を雇用し、商品開発を行った。

特徴

- ・商品に合わせた「ゆるキャラ」もつくり、地元川崎町のキャラクターとした。
- ・開発した商品は公園内だけでなく、地元物産センター・コンビニ等でも販売し、人気となっている。



チョコレート菓子(チョコラータ) / ゆるキャラ(チョコスもん)

馬搬・馬耕を再現したイベント実施

概要

馬を使った技術を継承し、「森と人と馬が創る里山景観」を再現するため、イベントとして里山地区にて馬で伐採木を運搬する「馬搬」、自然共生園の水田にて馬で犁(すき)を引いて耕す「馬耕」を実施した。実施に際しては、「遠野馬搬振興会」の協力により行った。

経緯

1975(昭和50)年頃まで、東北地方では樹林地内の間伐材の運搬や水田の農耕に、馬が使用されていた。地域内における自然環境の再生や保全をおもなコンセプトとする自然共生園と里山地区らしいイベントとして、馬を使った昔ながらの作業の再現が企画された。

特徴

- ・「絵になる風景づくり」と「人への癒し効果」をもたらした。
- ・地元と連携したイベント実施によりコストダウンをはかった。
- ・地域文化の継承に一役買った。



馬搬の実施 / 馬耕の実施